



# カイゼン★ニュース

＜テレワーク活用&他市カイゼン事例紹介＞

2023.3 編集/発行 都市戦略本部 行財政改革推進部

## KAIZENセミナーを会場と動画配信を併用して開催しました

監督職（課長補佐・係長級）を対象に、自治体DXやテレワークについてセミナーを開催し、多くの方に満足いただきました。その講演内容の一部を紹介いたします。（資料は庁内ライブラリに掲載しています。）



テーマ

「自治体DX推進に  
不可欠なテレワークの実践」

講師 高橋 邦夫 様

合同会社KUコンサルティング 代表社員  
総務省 テレワークマネージャー  
元 豊島区役所CISO

### 【主な内容】

- ▶ 2040年になると労働人口が減少し始め、会計年度任用職員の任用や業務委託など、これまでのように人を増やすことで業務を行うことはできなくなるため、一人一人の生産性を高める必要がある。例えば、庁内会議の会議録についてはI Cレコーダーのデータをファイルサーバーに置くということで時間を生み出すことができる。お金を掛けずこういったところからDXを始めればよい。
- ▶ **テレワークの大きな目的はBCP**。ただ、その環境が全くの塩漬けだったらもったいない。それを活用してアウトリーチでどんどん仕事、市民サービスをやっていけばいい。
- ▶ テレワークは小さく始めてもよい。例えば、**業務マニュアルを見返して更新することや普段職場ではできないような業務をやるとよい。現場の記録を本庁舎まで戻らずに、近くのサテライトオフィスで作業する働き方もできる。**
- ▶ **まずは皆さんの働き方を変えましょう。**自治体の中で閉じこもっていないで、もっと社会を広く、視野を広くしていただきたい。

### ※ [事例紹介]桜区役所福祉課のテレワークの取組 ※

福祉課では、テレワーク実施時に各自の業務の見直しや学び直しにより業務改善につなげています。

登庁日は、来庁者対応や日々の業務対応に追われ、自席で業務改善等に関し、考えることが難しい状況でした。そこで、**自分の業務内容を整理する時間や普段できない公文書の書式の勉強**をテレワーク中に行っています。

取材に対応いただいた清水課長からは「自分自身で考えた業務改善を実際に試してみることで、やらされ感が減り、職員のモチベーションに変化が出てきているように感じます。テレワークの機会を普段できない業務の改善にあてることで、職員がルーチンワークを見直し、効率性を考える良い機会になりました。」とのコメントがあり、テレワークを効果的に活用されている様子を伺うことができました。

## 他自治体のカイゼンの事例紹介

今年度は所沢市と中野区の改善発表会に参加してきました。大賞に選ばれたそれぞれの事例についてご紹介します。

### 1月10日開催「有言実行発表会」(所沢市)

#### 「スタンディングスペースでオフィス環境改善」

会議室の予約が取れない状況であったため、ファイリングキャビネットの天板を打ち合わせスペースとして活用した事例です。座りながらでは長引いてしまう会議も立って会議を進めることで、短時間で済み、健康面でも利点があることが評価されました。



当日は、所沢市長をはじめとする特別職、部長職及び他の自治体職員等による審査により、表彰事例が決定しました。

### 1月17日開催「OneUp↑チャレンジ発表会」(中野区)

#### 「新区役所移転準備スピードアッププラン～ペーパーレス化をとめるな!～」

中野区では、新区役所移転に向けて紙文書的大幅削減を目標に掲げ、ペーパーレス化を進めている中での改善事例です。

介護事業台帳の保存年限を常長期（※常に取り出せるところに長期保存）から10年保存に変更し、ファイリングを事業所ごとから地域ごとに変更したことで、62.5%の紙文書削減を達成しました。



発表会では、漫才を交えてわかりやすく発表していました。